

会長を語って



「合併メリットを活かし 高度なサービスを提供」

巨理山元商工会

会長 横尾 一夫氏

○会長さんのご商売について
お聞かせください。

山元町内で酒を中心とした
コンビニエンスストア「デイ
リーヤマザキまがね」を経営
しています。

私は三代目で、初代が大正
二年に和菓子屋として「真金
堂」を創業いたしました。

私も菓子職人としての修行
を積みましたが、商売として
酒類を扱うことに興味が湧き、
仙台での会社勤めを経て、昭
和三十九年に家業を継ぐ際に、
酒小売業に業種転換いたしま
した。



この季節旬を迎える名物「ほっき飯」

更に県内でも早い時期だっ
たと思いますが、昭和五十八
年に現在のコンビニ経営を始
めました。

○最近の地域の経済環境はい
かがなものでしょうか。

地域の会員はたゆまぬ努力
を重ねていますが、依然とし
て大型店の出店や後継者不足
等により厳しい状況が続いて
おり、非常に大きな危機感を
感じております。

○現在、商工会で特に取り組
まれていることなどお聞かせ
ください。

合併により、ある程度の経
費節減は図れましたが、それ
に甘んじることなく、限られ
た経営資源を有効に活用する
ため「費用対効果」の考え方
をしっかりと踏まえ、会員が
期待する高度なサービスを提
供できる組織づくりに取り組
んでいます。
その為に従来の事務事業のあ

り方を見直すことはもとより、
職員にも今まで以上に勉強し
ていただいております。

また、行政のご理解とご協
力も必要不可欠ですので、町
の会議や行事には可能な限り
出席しています。

やはり二つ（巨理町と山元
町）だと思っていた以上に大
変ですが・・・（笑）

○最後に会長さんの抱負や今

後の方針をお聞かせ下さい。

一昔前まで「産業・組織は
五十年」と言ったようです。

しかしながら、ダイエーや
西武グループのような大手企
業であっても旧態然とした経
営・組織運営では市場から淘
汰される現代においては「産
業・組織は二十年」といった
ところでしょうか。

最近、商売を志した若手経

営者の方々と話す機会も多い
のですが、その知識と実践に
裏付けられた斬新な考えには
見るべきものがあります。

このような若手の意見を組
織の中にもっと取り込むこと
で組織活性化に繋げ、行政の
ご理解を得ながら、「行政と
商工会と会員」の三者が一体
となった地域振興を図りたい
と思っております。

がんばる世帯さん



お客様のため、全力で

いしがき金物店

石垣 かよさん

東松島市商工会

私が初めて商売に出会うき
っかけとなったのは、二十八
年前、私の生家が火事で丸焼
けになったとき、たまたま買
物で今の店に行ったというこ
とです。

レジのおじさんに「ねえち
ゃん、どこの娘さんや。うち
の息子と付き合ってみねすか。」
といわれ、突然のことで、思
わず「はい」と答えてしまっ
たのが私の商売人生のはじま
りです。

農家育ちの私に商売なんて
出来るのだろうか、という不安
はありましたが、優しい夫と

義父母・お客様に支えられて
今日までできました。

二年前に義父は亡くなりま
したが、これまで商売のイロ
ハから教えてくれ、実の娘同
様に可愛がってくれました。

お蔭様で今の私があります。
「いしがき金物店」という屋
号で工務店用の建材等をはじめ、
家庭用品・日用雑貨等々
を扱っています。

以前は建築用資材の比率が
高かったのですが、二〇年程
前から家庭用品にも重点を置
くようになりました。最近、
ガーデニング用品・ギフト用

品も置く様になり商品の種類
はかなりの数です。私たち夫
婦と従業員三人の五人で働い
ていますが、夫は配達が主な
のでかなりきついです。

近々、大型店が出店するの
で商店はいろんな意味で変わ
っていくことでしょう。でも、
「いしがき金物店」を必要と
してくるお客様がいる限り
頑張れる気がします。

泣けば悲しくなる
笑えば勇気が湧いてくる
（深井和子さんの詩より）
自分に言い聞かせながら毎日
頑張っています。



落ち着いた店のたたずまい